

**稲敷地方広域  
市町村圏事務組合  
視察研修報告**

**視察日**

平成 26 年 7 月 3 日～4 日

**視察先**

・ 神奈川県小田原市  
小田原市消防本部

**視察目的**

当組合議会運営と広域行政が一層の進展と効率化を目指すことを目的とする

**参加者**

山崎幸子 飯田洋司

**視察内容**

小田原市は、神奈川県西部に位置し、西部は箱根連山につながる山地、東部は曾我丘陵と呼ばれる丘陵地帯で、市の中央には酒匂川が南北に流れて足柄平野を形成し、南部は相模湾に面している。人口約 20 万人の神奈川県西地域の中心都市である。

小田原市消防本部は、県

西地域 2 市 5 町（小田原市・南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町）による消防の広域化を実施している。この背景には、災害の大規模化や住民ニーズの多様化など、消防を取り巻く環境が大きく変化していることにある。初動対応、出動中の補完体制等、対応力の増強など消防が取り組むべき課題は多く、的確な対応が求められる。そこで、住民が安心安全に暮らせる災害に強い消防体制を実現する上で、消防の広域化は最も有効な手段であ



小田原市消防本部での説明



小田原市消防本部の消防設備

ることから、平成 25 年 3 月 31 日に県西地域 2 市 5 町広域消防が発足した。

消防を広域化したことで、確実に効果が表れている。一つ目に、救急車や消防車の到着時間が短縮されたこと

がある。これまでの管轄区域にとらわれず、行政区域を超えて消防活動が可能となったことから、災害現場に最も近い消防署から消防車や救急車が出動するため、災害現場への到着時間が短縮された。二つ目に、出動部隊の増加により初動体制が強化された。消防の広域化で、初動体制におけ

る出動部隊数が増加したことで、早期の延焼防止が可能となった。

稲敷地方広域市町村圏事務組合も、27 年度より阿見町と統合し、人口 30 万人の広域体制に移行する。これにより、指令センターも一新され、消防・救急無線のデジタル化及び指令センターの広域化など、初動体制、大規模災害への対応が格段に良くなる。

小田原市消防本部で研修したことが、現在進めている消防の広域化に参考になればと考える。



小田原市消防本部にて